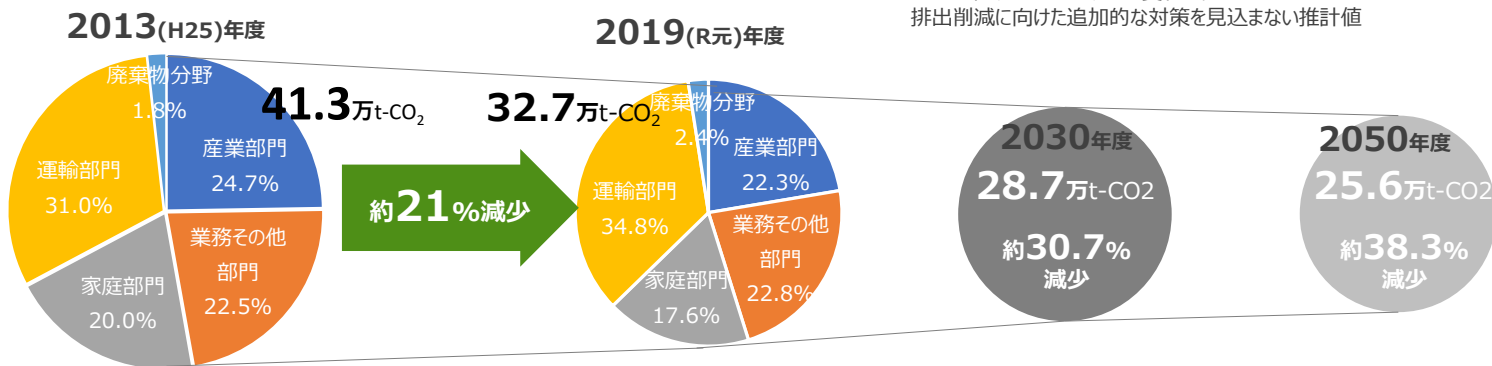


秩父市地域脱炭素ビジョン 概要版【現状と課題】

温室効果ガス排出量

【推計】現状すう勢(BAU)

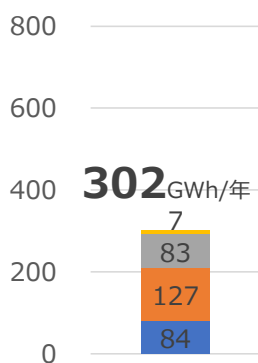
人口や経済などの活動量の変化は見込みつつ、排出削減に向けた追加的な対策を見込まない推計値



秩父市では、産業部門・民生部門(業務その他・家庭)・運輸部門それぞれ一定の排出量がありますが、このうち民生・運輸部門は普段の生活や仕事(例えば住宅・商業施設等での電気の使用、ガソリン車を使用)に関連する活動による排出量が多く、今後、大きく削減を図ることが期待されます。カーボンニュートラル達成には普段の生活や仕事の中でも温暖化対策を意識し、「家庭」「事業者」「市」による一体的な温室効果ガス排出量削減に向けた取り組みが必要です。

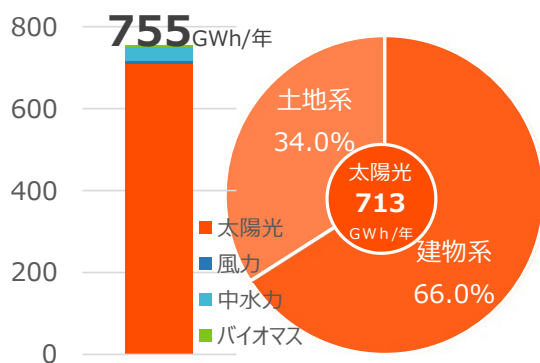
電力需要

2019(R元)年度



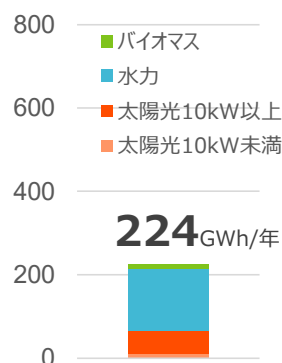
再エネポテンシャル

2019(R元)年度



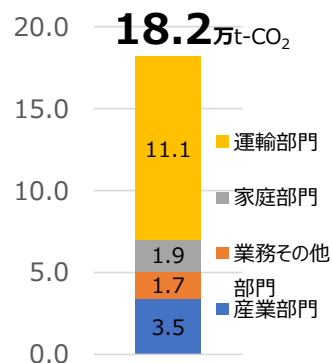
再エネ導入実績

2020(R元)年度



燃料使用による温室効果ガス排出量

2019(R元)年度

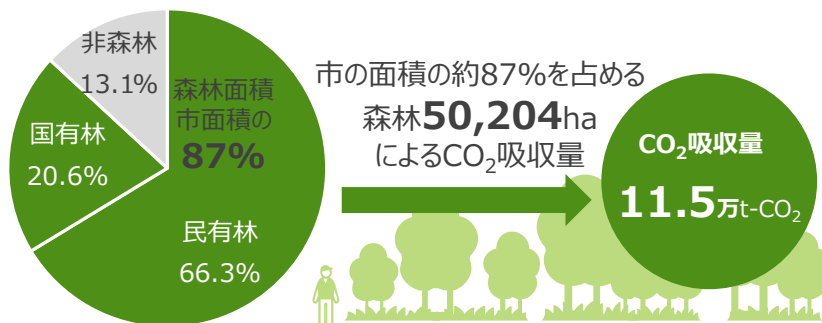


現状の電力需要に対して再エネポテンシャルは約2.5倍あります。そのうち太陽光発電のポテンシャルが94%と大きな割合を占めますが、現時点でその導入実績はポテンシャルの10%以下にとどまっています。今後は、太陽光発電のポテンシャルの中でも6割以上を占める建物への導入の推進を検討していきます。

ガソリンやガスなど燃料使用による温室効果ガスの排出も多くあるため、今後は、「省エネ+電化」の推進が必要です。特に運輸部門に占める割合が高く、電気自動車の普及等も必要です。

森林によるCO₂吸収量

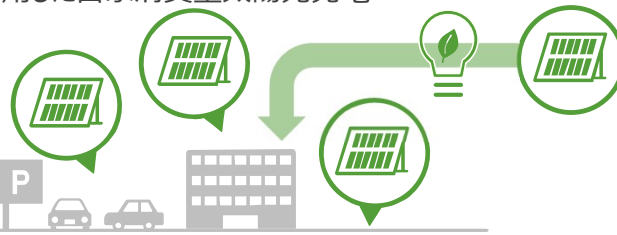
2018(R元)年度



多様な再エネ導入方法

建物の屋上・駐車場・敷地を利用した自家消費型太陽光発電

再エネ由来の電力や地域の再エネを利用

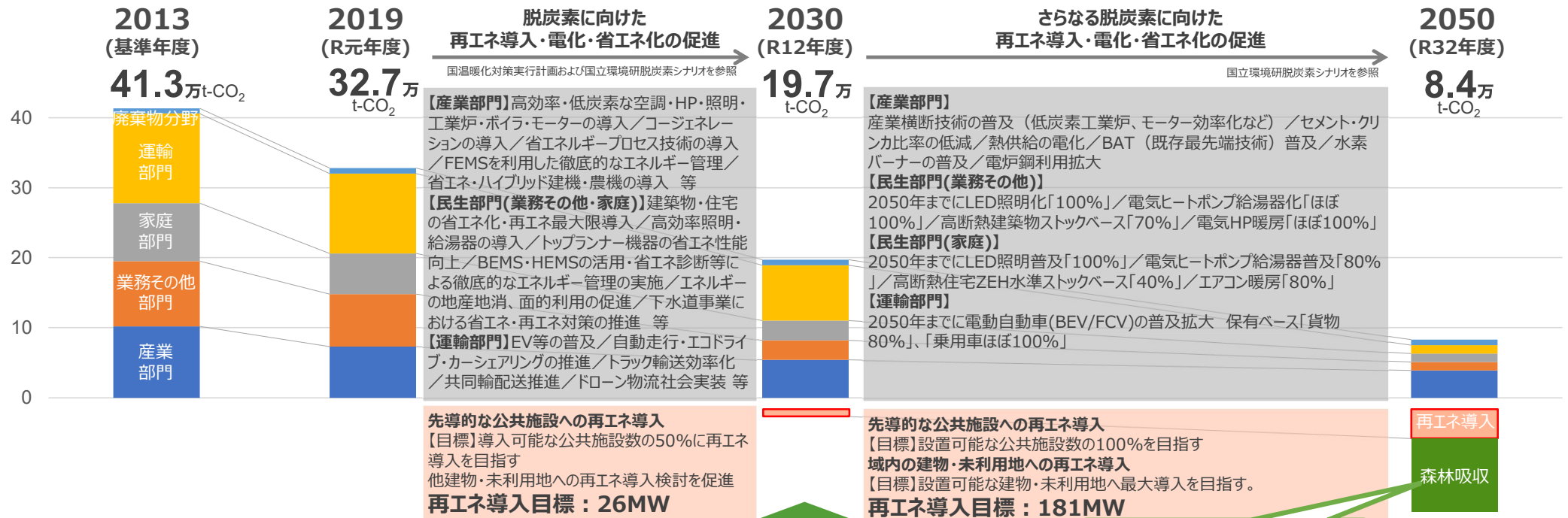


森林によるCO₂吸収量は、約11.5万t-CO₂が見込まれていますが、今後その吸収量を維持・最大化するためには適切な森林整備が必要です。

これまでのFIT制度を活用した再エネ導入だけでなく、自家消費型の再エネ導入や再エネ由来電力の利用・地域の再エネの活用など多様な方法で再エネの導入検討が必要です。

2050年度の「カーボンニュートラルの達成」さらには「カーボンマイナス」の達成に向けて、重点施策を推進します

地域脱炭素実現のためのロードマップ



地域脱炭素実現のための重点施策

再エネ導入・森林吸収も合わせて
カーボンマイナス達成へ



先導的な公共施設 脱炭素化の推進

先導的に公共施設の脱炭素化を推進し、そのノウハウ・知見を地域へ展開していきます。各施設のエネルギー使用量を分析・改修時期を考慮した計画的な脱炭素化を推進します。



地域脱炭素プラットフォームによる施策の推進

家庭や事業者向けの情報発信や対策・導入に向けた相談・事業促進を目指したプラットフォームの設置・運用を検討します。地元企業等の参画により地域活性化も目指します。



再エネ地産地消の拡大

市内における再エネ導入・地産地消の拡大のため、「地域再エネ電力の発電事業促進」や「再エネの地産地消を担う事業者の強化」などの施策を検討します。



森林吸収の最大化を目指した 森林整備の推進

森林整備の促進策（既存制度の利用拡大およびスマート林業推進等）を検討・実施し、森林によるCO₂吸収量の維持・最大化を目指します。



水素を活用した 再エネ有効活用策

再エネの有効活用策として、余剰再エネ電力による「グリーン水素」の製造・利用をはじめとした、新たなエネルギーの活用を推進します。



再エネ・環境価値の 地域間連携・融通

将来的なカーボンマイナス達成時には、周辺地域や姉妹都市等の自治体において地域間で連携し、再エネおよび環境価値の融通を検討します。